

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504021		
法人名	株式会社 アムケア		
事業所名	グループホームまどべⅡ		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条7丁目1-6		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一年を通して、散歩に出かけることを日課としており、季節を感じながら、地域の方との交流を図り、社会から孤立しないよう支援しています。認知症により出来ないが増えて来ても、共同生活の中で家事などの作業を入居者の方と職員が一緒に行い、「できること」「できないこと」を見極めながら、さりげない支援を心がけています。食事は大切な楽しみの一つですので、献立には旬の食材を積極的に取り入れ、季節感とバリエーションに富み、入居者の方に喜ばれています。まどべⅡの理念に基づき、決して職員本位にならず入居者の方の個々のペースに合わせて、ゆったり時間が流れ、尊厳を守り、地域の一員としての社会的交流を支えながら、一日一日を大切に暮らすお手伝いをしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170504021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成26年12月26日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地下鉄2路線の駅から徒歩10分程度の住宅地にある2ユニットのグループホームである。建物は3階建てで、2～3階がグループホーム、1階がデイサービスと喫茶店になっている。近隣には公園や幼稚園、昔ながらの市場、スーパーなどがあり、利便性が高く徒歩での外出を楽しむ環境に恵まれている。共用空間が広く、壁には絵画や手作りの装飾、行事の写真が豊富にあり、観葉植物や温かみのある家具を置いて、落ち着いた雰囲気となっている。トイレや浴室、エレベーターなどの設備も使いやすく整っている。職員は理念を理解し、利用者に穏やかに優しくゆったりと接し、利用者は明るく過ごしている。職員にとっても職場の雰囲気が良く、互いに意見の言いやすい関係が築けている。職員の教育にも力を入れ、年間計画を立ててプログラムに沿って毎月の勉強会を開催している。地域との関係では、お互いの行事の参加や保育園との交流、多数のボランティアの受け入れが行われており、災害時の協力体制もできている。利用者は普段から散歩や買い物に出かけ、テレビ塔や道庁、昔住んでいた地域など利用者が懐かしいと感じる場所への外出も活発に行っている。また、花見や外食などの年間行事も充実させている。食事や入浴、看取り介護なども利用者や家族の意向に沿ったサービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(2階ユニットわらべうたアウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はフロア内に掲示にしてあり、理念を共有し、必要なときに、沿った行動が出来るよう、実践しています	理念の中に「地域の一員としていきいき」という文言を入れ、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念として確立している。理念を居間やスタッフルームに掲示し、日々職員が理解を深め、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎日のお散歩で、ご近所の方や、商店の方々との交流がある。まどべの行事のお誘いや町内のゴミ拾いの参加などを行っています。	町内会のごみ拾いや花の手入れに利用者と共に参加し、事業所のもみじ祭りや開設記念合同祝賀会に地域の方の参加を得ている。保育園児と交流したり、大正琴や陶芸、生け花など多様なボランティアの訪問を受けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時等、相談や質問を受けており、アドバイス等させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価等の評価結果等を報告している。また毎回意見交換は行っている。	今年度は会議を6回開催する予定である。地域包括支援センター職員や町内会役員、地域住民、利用者家族が参加し、外部評価や避難訓練、葬祭・防犯セミナーなどをテーマに意見交換している。また議事録を家族に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所へは頻繁に訪問して担当者と情報交換をしている。協力関係を築けるよう取り組んでいます。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、情報提供を受けている。管理者は区のグループホーム管理者会議の代表を務め、市や区の担当者と情報交換を行っている。おむつサービスの件でも区に相談に出向いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者を含め、全職員が身体拘束をしないケアについてまどべの勉強会に参加している。また、外部の研修に行き勉強するきっかけがある。日中は施錠せず、夜間のみ安全面を考え、施錠している。	禁止の対象となる具体的な行為を示したマニュアルを用意して年に1回程度、身体拘束の勉強会を行い、職員の理解につなげている。玄関は夜間のみ施錠しており、各ユニットの出入り口のドアにセンサーをつけ、外出があればわかるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者を含め、全職員が虐待防止法等についての勉強会に参加している。外部の勉強会に行き勉強する、機会があります。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	まどべでの勉強会や外部に研修で学ぶ機会がある。外部研修の参加者は全職員に研修内容を報告している。入居者の方には成年後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、施設内の見学、話し合いを持ち、重要事項説明書や契約書を渡すとともに口頭でも説明している。退居(解約)時には話し合い、必要なフォローをしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時に意見を求め、運営に反映している。運営推進会議等外部者がいる時にも意見をうかがっている。	少ない方でも月1回以上は家族の来訪があり、その際に意見を聞いて運営に反映している。家族の意見等は日誌に記録し職員間で共有している。事業所全体と利用者の情報を載せたホームだよりを毎月作成し、家族に提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が、職員の意見や要望を把握し代表者に繋げ、相談しやすい環境にある。代表や管理者は、毎月定例の勉強会やカンファレンスに出席し、職員の意見を聞き入れ、運営に反映している。	ユニット毎に行われる毎月のカンファレンスや勉強会で、職員同士が活発に意見交換している。自己評価をもとにした個別の面談を進めている。職員は、レクリエーションや運営推進会議、勉強会などの委員を担当し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は、職員個々の状況を把握し評価している。また、向上心を持って働けるよう、整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は職員の力量に合った外部研修に参加出来るよう積極的に勤めている。受けた研修は、まどべの勉強会に他の職員に共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	豊平区管理者連絡会の代表をしており、研修会に参加しています。他の施設の方と交流し、意見交換の場がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や御本人が施設に、訪問して頂き、見学し要望や不安に思っていることに、耳を傾け、お話する機会を作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が安心してサービスの利用が出来るように、面談や、見学、電話で困っていることなどを良く聞き取り、ご家族、ご本人の要望に対して満足して頂けるよう努力します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者と管理者はサービスの利用前に、ご本人とご家族がGH以外の支援を必要とする時、他のサービスの利用の必要性の有無も視野に入れて話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、共に生活している者同士として、多くの経験をしてきた先輩として、多くのアドバイスを頂いています。多くの場面で助け合う関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が訪問された時、お電話を下さった時は、日常の様子をお伝えしたり、今後の行事予定をお伝えし、いつでも気軽に訪問して頂ける関係作りをしていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイや小規模多機能から移ってきた方がいます。毎日の散歩に立ち寄り交流するなど、しています。ご家族以外のご友人の訪問も有ります。	同一法人が経営する敷地内のデイサービスや小規模多機能型事業所から移った利用者が、仲の良い方々に会いに行っている。行事で道庁やテレビ塔に行ったり、希望に沿って選挙や家族の墓参り、昔の居住地などに同行している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、孤立しないように配慮している。それぞれの力量を見計らい、職員が仲立ちをしながら、よい関係が作れるお手伝いをします。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の方の来訪があったり、関係は継続している。相談を受けフォローする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族等から、生活歴や嗜好等を聴き、ご本人の思いを傾聴し、ご本人が望む事がかなうように、本人が決定できるよう支援している。	言葉で思いを表現することが難しい利用者でも、表情や話しかけた際の反応などから思いや意向を把握している。利用開始時にセンター方式のアセスメントシートを作成し追記も行っているが、3年以上、情報の追加や更新がされていない場合もある。	アセスメントシートについて、少なくとも1年程度の期間で定期的に情報の追記や更新が行われることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の記録等を活用し、ご家族より具体的な過去の情報を頂き、得られた情報を職員間で共有し、ご本人の支援に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の近くで見守り、得られた情報は、申し送りや記録で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で意見交換を行い、ご本人を尊重し、具体的なケアが出来るケアプランを作成している。	介護計画を3か月毎に更新している。全職員がプランに対する意見を提出してカンファレンスを行い、意見を集約して次の計画を作成している。個人記録も介護計画を参照しながら、目標項目を意識した記録が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間シートや毎日の様子を具体的に書き込み、職員間で情報を共有し、新たなケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナルケアにも対応しており、在宅診療を行う医師と連携している。在宅マッサージや理美容等ご本人や家族のニーズに応じている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民やボランティアの方と協力し、楽しい場面を提供できるように努めている。地域の保育園との交流も行ってる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月、提携医の往診がある。その他、個々の状況に応じて、提携医以外の医療機関にも通院介助している。ご家族の協力をえて通院も行っている。	協力医療機関による2週に1度の往診がある。その他のかかりつけ医の受診は家族対応だが、必要に応じて事業所で通院支援している。受診内容を「医療関係記録」に記載し共有している。看護師を職員に配置し健康管理を行っている。	

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と情報共有している看護職員が24時間連絡が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院を目指し、こまめな情報交換、働きかけをしている。看護連絡書を提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の対応に関わる指針を説明の上、同意書をもっている。また、ご本人や家族の希望も聴いている。現在、ターミナルケアを行っている方もいる。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明し書類を取り交わしており、実際に重度化した場合はさらに覚書を交わしている。できる範囲で看取り介護を行う方針とし、過去に複数の方の看取りの経験を積んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、採用時研修で学んでいる。勉強会や消防署と連携し、定期的な訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域の住民やご家族に参加していただき、避難訓練を行っている。	年2回、消防署や地域の協力を得て夜間想定避難訓練を実施しており、緊急通報装置の連絡先に近隣住民も入っている。職員の救急救命訓練の受講を定期的に行い、緊急時に必要な備蓄品の準備もなされている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格やプライバシーを尊重し、尊敬の念を持ち、丁寧な言葉かけで接している。	採用時研修で記録の書き方を指導したり、外部の接遇研修に参加している。職員間で情報交換する時は、プライバシーに配慮して小声で話したりインシヤルで伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いを汲み取る努力をし、自己決定できる場面作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースや体調に合わせた過ごし方をして頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装が出来るよう、気温や外出の目的にあった身だしなみが出来るようお手伝いをする。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や、皆で共有できる話題を提供し、楽しみながら食事している。また、食事の支度も一緒に行っている。	献立は法人で作成し、利用者と一緒に買い物に出かけている。木曜日の夕食はお好みメニューにして、ユニット毎に利用者の好きな献立にしている。外食に出かけたり、秋には収穫祭を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握、個々に摂取量を確保するように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。歯科と連携し必要なケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、チェック表を元にトイレ誘導している。立位が不安定な方、職員2名介助にてトイレを使用して頂いている。	個人記録に排泄状況を記録して、時間で誘導したり見守りを行っている。昼夜共にトイレでの排泄を基本に、身体状況に応じて夜間のみパット交換で対応したりポータブルトイレを使用する事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分量チェックや運動を行っている。また医療機関と連携して、状況に応じた下剤のコントロールもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者と職員が1対1で会話を楽しみながら入浴している。体力や、その方の動きに合わせて2名介助にて支援しています。	足浴日の日曜日以外の午後の時間帯で、週2~3回の入浴を支援し、希望に応じて入浴回数を増やしている。歌をうたったり、自立している方は見守りで対応するなど、各利用者がゆっくり入浴を楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、ご本人の体調や希望に応じて休息していただいています。昼夜逆転しないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服用している薬について、定例の勉強会時等に情報習得している。都度の処方の変更は、医療ノートや毎日の送り時に情報を共有する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを見極め、役割を提供している。また、趣味のボランティアの先生と協力して、楽しい時間を提供している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階ユニット わらべうた)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一年を通して、散歩や買い物を日課としている。また季節の外出行事もあり、花見、さくらんぼ狩り、レストランで外食などにでかけている。個々の希望に合わせ、職員や家族の付添いのもといつでも出かける事が出来る。	年間を通して、近隣を散歩したり公園や買い物に出かけている。玄関先で外気浴をしたり、畑を見に出かけることもある。外出行事でお花見やサクラんぼ狩りに出かけたり、クリスマスにはプレゼント交換の品を買いに出かけて外食なども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことの大切さは理解している。現在お金をお持ちの方には、一緒に買い物に行く、支援をおこなう。お金をかくし忘れる方には、発見するお手伝いをする。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会ごとに電話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアはバリアフリーである。また、季節を感じるフラワーアレンジや、装飾品を飾り、心地よい空間づくりを意識している。	居間と食堂は、大きな窓に面した明るく広々とした造りで、応接セットや食卓テーブルなどは趣のある家庭的な家具を配置している。廊下などの壁に絵画や利用者の笑顔の写真を掲示したり、居間の出窓には観葉植物が置かれており、家庭的な温もりが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置等を工夫することにより、気の合う方同士過ごせたり、一人になれたりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等をお部屋に持ってきていただき、環境の変化を最小限に抑えるように努めている。配置換えが必要な時は、ご家族やご本人の同意を得て行っている。	居室の入り口には、ボランティアの方と一緒に製作した季節のしめ飾りなどが飾られている。出窓に小物を飾ったり、タンスや仏壇、テーブルや椅子などの使い慣れた家具や好みの品を持ちこみ、自宅のように落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やのれんをかけて、分かりやすい工夫をしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170504021		
法人名	株式会社 アムケア		
事業所名	グループホームまどべⅡ		
所在地	札幌市豊平区月寒東3条7丁目1-6		
自己評価作成日	平成26年12月10日	評価結果市町村受理日	平成27年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「2階ユニット わらべうた」に同じ

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170504021-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(3階ユニットおとぎばなしアウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり寄り添い慈しみ合って暮らしていきたい自分らしく誇り高く地域の一員としていきいきと」の理念を皆で共有し、カンファレンス勉強会で意見交換している。また、居間やスタッフルームに掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩の時に交流している。。また、町内会に加入し、会議や行事に参加しあっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時など、相談や質問を受けており、アドバイス等させて頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価の結果などの評価結果などを報告している。また毎回意見交換は行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所へは電話をしたり、訪問して担当者や情報交換をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者および全ての職員が身体拘束をしないケアについての勉強会に参加している。また夜間以外は玄関に施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表者および全ての職員が虐待防止法等についての勉強会に参加している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修に参加し、参加者は研修内容を報告している。入居者の方には成年後見制度を利用している方もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、重要事項説明書や契約書など、説明し同意して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議など外部者がいる時にも、意見をうかがっている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は、毎月定例カンファレンスや勉強会に出席し、職員の意見を聞き入れている。また、リーダー会議も行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員個々の状況を把握し評価している。また、向上心を持って働けるよう、整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表は職員の力量に合った外部研修に参加できるよう積極的に進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加することでネットワークが出来、情報交換しながら、サービスの質の向上に結び付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が安心してサービスの利用が出来るよう、ゆっくり時間をかけ話し合いをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の方が安心してサービスの利用が出来るよう、こまめに連絡を取ったりして、話しやすい関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	代表者と管理者はサービスの利用前に、ご本人やご家族の状況を見極め、他のサービスの利用の必要性も視野に入れ話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、ご本人と一緒に家事などを行ったり、教わる場面作りをして尊敬や感謝の気持ちを持って接している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係の絆も大切にし、情報交換しながら共に支えていく意識を共有できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が大切にしてきた馴染みの人や場所の話題を提供するなどしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の方同士の関係を把握し、孤立しないように配慮している。また、入居者の方同士が助け合える場面作りや仲立ちをしている。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もご家族の方の来訪などがあり、関係は継続している。相談を受けフォローする事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や日々の会話等から、ご本人の思いを汲み取り、ご本人の視点で支援できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの経過などをフェイスシートなど活用し、全職員で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に観察し、申し送りや記録で情報共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員がモニタリングして、半数位の職員がカンファレンスに参加し、本人本位のケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録には具体的な様子などを書き込んでいる。職員はそれを共有し、新たなケアプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	提携医療機関以外でも連携して頂いている医療機関がある。ご家族の都合がつかない場合等、職員が通院介助する。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の住民の方やボランティアの方と協力し、楽しい場面を提供している。また、保育園との交流会もしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より通院されていた医療機関がある場合は、希望通り通院を続けている。職員が通院介助する事もある。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員と情報共有している看護職員が24時間連絡が取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、早期退院を目指し、こまめな情報交換、働きかけをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化した場合の対応に関わる指針を説明の上、同意書をもっている。また、ご本人やご家族の希望も聴いている。適宜ターミナルケアも行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、採用時研修で学んでいる。また、消防署と連携し訓練も行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域住民の方にも参加して頂き、避難訓練を行っている。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけで接し、誇りやプライバシーを損ねないように配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いを汲み取る努力をし、自己決定できる場面作りを提供している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペース、希望や体調に合わせて過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品をしたり、その方らしいおしゃれが出来るよう支援している。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材やその話題を提供したり、好みの献立を聞いて楽しみながら食事している。また、食事の支度や片付けも一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し把握している。また、個々に摂取量を確保できるように申し送りもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、チェック表を元にトイレ誘導を行い、出来る限りトイレでの排泄を目指している。また、羞恥心にも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため、水分量チェックや運動を行っている。また医療機関と連携して、状況に応じた下剤のコントロールもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望される方が多く、出来る限り対応している。また入浴の時にはゆっくり会話を楽しんでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	メリハリのある生活を心がけており、夜間良眠出来ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々が服用している薬について、勉強会で情報共有したり、薬が変わるごとに目的や副作用について医療ノートに書いて職員は確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を提供することで居場所があると感じて頂いている。また、趣味のボランティアの先生の来訪を楽しみに待たれている方が多い。		

グループホーム まどべⅡ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3階ユニット おとぎばなし)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日課として一年を通して散歩や買い物行っている。また、季節ごとに外出行事もあり、花見、さくらんぼ狩り、レストランで外食などにでかけている。個々の希望に合わせて、職員や家族の付添いのもといつでも出かける事が出来る。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方がおり、ご自分で好きな物を選び買物を楽しませている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	機会あるごとに電話できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアーはバリアフリーである。また、季節を感じる装飾品を飾り、居心地よい空間づくりを意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置などを工夫することにより、気の合う方同士過ごせたり、一人になれたりできるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ってきていただき、環境の変化を最小限に抑えるように努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札やのれんをかけて、分かりやすい工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム まどべⅡ

作成日：平成 27年 1月 7日

市町村受理日：平成 27年 1月 9日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	アセスメントシートの見直しや更新が定期的に行われていない。	アセスメントシートは、状態変化などがあった時には情報の追記や変更を行う。また、少なくとも1年程度の期間で定期的に情報の見直しや更新を行う。	状態変化などがあった時には、更新を行う。更に、年度末には必ず見直しや更新を行う事を全職員に周知する。	平成27年1月 ～ 平成27年3月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。